地域医療連携センター

センター長　塚田暁

はじめに

新型コロナウィルス感染症の影響が猛威を振るう中、2 月、8 月と院内クラスターが発生し、病床の制限により救急、紹介の受け入れを制限せざる得ない状況が続き、地域の医療機関の方々にはご迷惑をお掛けいたしました。その一方で、病床制限が解消されれば、制限前と変わらずに当院へご紹介いただきましたことにはあらためて感謝申し上げます。

当院が高度急性期の医療体制を維持していくためには、地域の先生方との個別具体的な連携＝アライアンス連携を拡大し、患者さんが必要な時に・必要な場所で・必要な医療を受けられる「地域完結型医療」を構築していくことが何より重要だと感じています。

人口減少社会における当院の役割を改めて考えつつ、地域の皆様とともに高知県の医療をより良くするために邁進していく所存ですので、引き続き当センターへのご支援・ご指導をよろしくお願い致します。

前方連携【患者さんの受け入れについて】

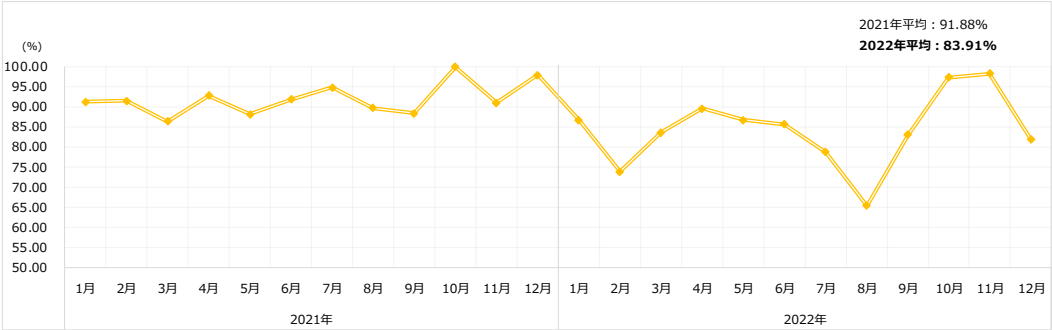
地域医療支援病院の紹介率は年間平均 83.91%で推移しており（昨年は 91.88%）、平日時間内の初診患者さんに占める紹介患者さんの割合は前年に比べ下降しました。新型コロナウイルス感染症の影響により院内クラスターが 2 月、8 月に発生したことで、患者受入の制限がかかり、紹介患者の受け入れに影響が出ました。

病院全体の紹介総数は前年比 125 件のマイナスとなり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、一昨年とは 424 件のプラスであり、増加傾向にあると考えられます。そのうち当センターを介しての紹介患者さんの受け入れ件数は年間合計 4,916 件と前年比で約 230 件のプラスとなっており、2 月の院内クラスターの際は過去最少クラスの件数だったものの、6 月には過去最多となる件数の受け入れを記録しました。最も増加した消化器内科では、昨年に引き続き緊急～準緊急対応の必要な胆膵疾患、消化管腫瘍への内視鏡的治療や、肝疾患の治療依頼が多くなっています。また、整形外科では 4 月より脊椎外科を担当している医師が国内留学から戻り、全内視鏡下脊椎手術を開始し件数増加の要因となりました。当センターとしては丁寧かつ迅速な予約調整を行い、信頼を高めていけるよう引き続き努力したいと思います。

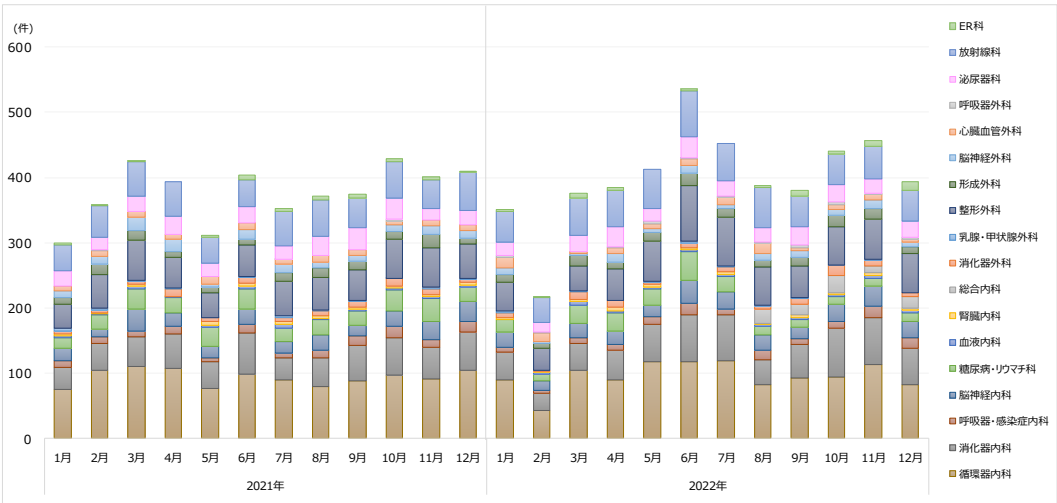
次に、やむをえず紹介をお断りした件数は前年比で 289 件の増加となりました。内訳としてはベッド確保困難が約 66%、対応困難が約 18%、適応外その他が約 16%でした。こちらも新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。コロナ専用病棟の設置やコロナ発生に伴い都度病棟閉鎖を行うなど、一般病床が減少し、受け入れに制限がかかったことが要因の一部となりました。

本年の主な取り組みとして、インターネット端末から利用できる紹介 Web 予約システムを 4 月から正式に開始しました。従来の FAX 予約と併せて運用しており、多くの医療機関の方々にご利用いただいています。

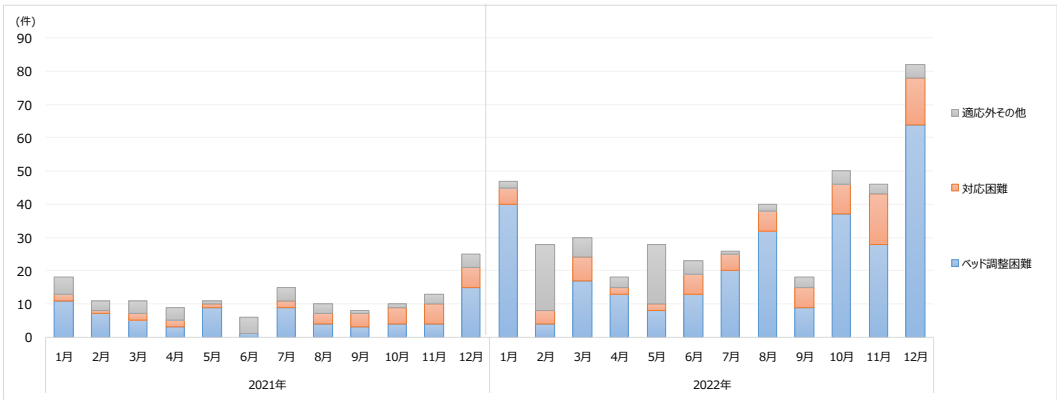
1．地域医療支援病院紹介率



2．地域医療連携センター経由　紹介患者受け入れ数



3．紹介お断り件数

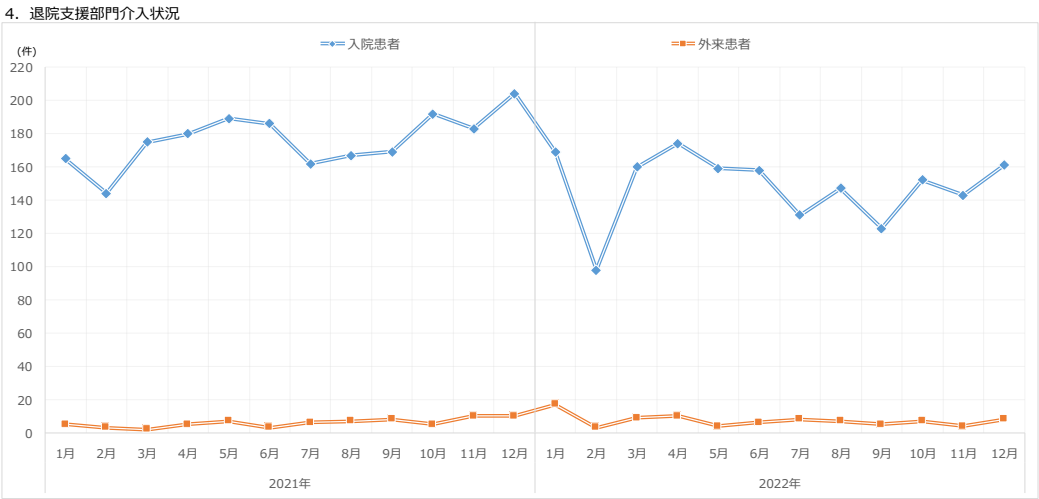


後方連携【患者さんの退院・転院支援について】

コロナウイルス感染症の第 7 波と第 8 波による連携への影響は、これまでに経験したことのないものでした。連携先のうち、受入の停止あるいは制限をおこなった医療機関が 2022 年 7 月～8 月 34 件、11 月～12 月 18 件。「クラスター発生」「患者または職員から陽性者が出ている」「出勤できない職員の増加で体制が整わない」等の理由で転院支援は進まず、近森病院の感染状況も相まって調整に多くの時間を要しました。院内の感染状況をタイムリーに発信するとともに他院の受け入れ状況を集約して他部署と共有を図り、ケース毎に支援方針の見直しや代替案の検討をおこないました。このように、連携が機能不全に陥ってみて、改めて、急性期から在宅支援まですべてはつながっていると実感することとなりました。

当センターの退院支援部門が退院・転院支援に介入した件数は年間合計で 1,863 件あり、うち

入院患者さんへの介入が 1,775 件、ER からの当日転院への介入が 88 件と前年比でトータル 324 件減少していました。



人事面について

2022 年 12 月末現在で医師 1 名・看護師 4 名・SW12 名・医事課その他事務 6 名(非常勤含む)の総勢 23 名の体制となっています。